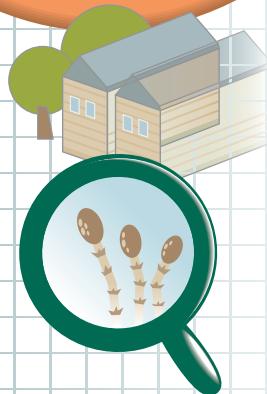


自然しらべの 創意と 工夫



もっと自然観察 もっと自然しらべ

はってん 発展

自然しらべをやってみて、いかがでしたか?

あなたのまわりの身近な自然の中に出していくきっかけになったでしょうか? このマニュアルは、全国どこでもできるように作られていますが、自然の姿は場所によってずいぶん違うと思います。このマニュアルをもとにして、あなたの土地の自然がもっとよくわかるような自然しらべを考えてみてはいかがでしょうか? それは、調査項目を探すというおおげさなものではなく、自然観察のテーマ探しなのです。

自然かんさつのポイント

遠くからみる

自然しらべでも必ず最初に土地の自然全体を見わたすような項目が入っています。ひとつの花をしゃがみ込んでみると、その木全体の姿がみえてきません。高いところからみたり、時には動物の目の高さからみてはいかがでしょうか。



じっくりみる

毎日の通勤・通学でも、まわりの景色は目に入っているはずです。では、そこにどんな自然がある? どんな変化があった? と聞かれたらどうでしょう。みているつもりでもみていないのではないか? じっくりみるために、スケッチをしてみるのも良いでしょう。

つながりでみる

ひとつの生き物をじっくり見ることは大切なことです。そうしているとその生き物と他の生き物とのつながりもみえてきます。自然しらべではそれに加えて、生き物とまわりの環境あるいは土地の自然とのつながりや、人と土地の自然とのつながり・かかわりに目をむけています。ぜひ、自然を「つながり」としてみてください。

Event Report 2001年自然しらべから「みんなのひとこと」

- 毎年春3月～4月沢山のニホンアカガエルが近くの雑木林や茶畠から産卵のため、雨の夕方、大森調節池に集まつてくる。途中道路を横断しなければならず、れき死が多量発生してしまう。みんなで救出作戦を実行している。埼玉県／小見寺公一さん
- 2月の下旬頃から、花のつぼみをふくらませ始める沈丁花の花を毎日、小学校に通いながら見守っていました。そして、この花の香りが漂い始めたら、卒業式別れの季節だなあ、としみじみ感じたものでした。神奈川県／萩原有美さん

自然かんさつのポイント

五 感で感じる



「みる」といっても目で見るだけではありません。味をみるといいますが、耳で、鼻で、肌で、そして舌で自然を見てください。毒のあるものには、注意が必要です。

一緒にみて 話し合ってみる

ひとりで自然観察をすることも楽しいですが、家族や友達、仲間と一緒に自然観察をすると、もっと楽しいものになります。自分の気づかなかったことや感じなかったことなど、新しい発見があるはずです。それが自然観察「会」です。

時間の流れでみる

同じ場所も季節が変わるとようすが違います。同じ木でも花が咲く時期、葉が茂る時期、葉が落ちる時期があります。それとともにその木にかかる生き物も違ってきますし、人のかかり方も違ってきます。川のようすも雨などが多くなる降ったり、雪がとける時期によってようすが違います。また年々によても違います。どんな変化があるでしょう。

違う場所を見比べてみる

同じ身近な自然でも、場所が変わるとようすが違います。となりの町のようすはどうだろう。この川の上流はどうなっているだろう。また、夏休みにいった山奥の自然とはどこがどのように違うのだろう。比べてみると、もっとあなたの身近な自然のことがみえてきます。



地図にしてみる

しらべた、観察した自然のようすや、人と自然のかかわりは、ノートなどに記録しておくと良いでしょう。その時に地図にしてみませんか。土地の自然のようすがとても良くわかつてきます。

右は、1999年の「里やまの自然しらべ」の時に、香川県の請川紋香さんに送っていただいた地図です。



Report

- 身近な自然の中にも、「あっ!」と驚く生き物たち(植物も含めて)がたくさん潜んでいて、まるで宝探しをしているようです。この身近なワクワク宝探し中毒、一生直りそうもありません。埼玉県／大野佐和子さん
- 自然の風景はあまりに身近なので、その大切さや美しさ、そして人の心に与えてくれるありがたさを見過ごしている人が多いと思います。写真やエッセイを見て初めて、これは残しておきたいと共感してくれると思います。神奈川県／石井哲男さん